

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 2 0 0 8 年 4 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 4 月 3 0 日

日 本 商 工 会 議 所

## < 結果のポイント >

4月の全産業合計の業況DIは 50.4となり、03年4月以来、5年ぶりのマイナス50台。特に建設業の業況DIは 64.6と厳しい状況が続いている(同じく03年4月以来の水準)。

全産業合計の従業員DIは横ばいだったもの、売上、採算、資金繰り、仕入単価DIは悪化。特に仕入単価DIは、14カ月連続で悪化し 55.9となり、1991年5月の同DI調査開始以来最悪の水準を更新。(仕入単価DI値 = 下落の回答割合 - 上昇の回答割合)

引き続き、原油・原材料価格の高騰による採算の悪化や、燃料費や食料品価格上昇の影響に伴う消費の低迷による売上減少などを訴える声が多く聞かれる。

また、今月は、道路特定財源の暫定税率の期限切れの影響に関するコメントが、建設業から多く寄せられた。受注の減少や先行きの不安を訴える声が聞かれる。

L O B O 調査は、地域における毎月の景気動向を調査するものであり、当該月の景況に係る調査結果を最も早く集計・公表しております(1989年4月調査開始)。

調査期間：2008年4月16日～22日

調査対象：全国の406商工会議所が2571業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業 378 製造業 615 卸売業 233

小売業 737 サービス業 608

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況(DI値を集計)および業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算 : (好転) - (悪化)      売上 : (増加) - (減少)

【本件担当】産業政策部 TEL:03-3283-7836

E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

## 【2008年4月調査結果の概要】

### **業況D Iは5年ぶりにマイナス50台へ、仕入単価D Iは14カ月連続で悪化**

4月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（46.9）よりマイナス幅が3.5ポイント拡大し50.4となり、03年4月以来、5年ぶりにマイナス50台となった。

産業別の業況D Iは、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調（鉄鋼、機械関係の受注増加等）、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

#### **【建設業】**

- ・「依然として公共・民間工事とも受注が減少しており、厳しい状況」（一般工事業）
- ・「原油・原材料価格の高騰に伴う建設コストの上昇により、採算が大幅に悪化」（建築工事業）
- ・「暫定税率の期限切れの影響により、発注が見送られ契約した工事ができず、従業員のリストラが発生。今後は業者の廃業も予想される厳しい状況」（一般工事業）

#### **【製造業】**

- ・「原材料価格の高騰に伴う生産コストの増加と受注の減少により、採算が悪化」（繊維製品製造業）
  - ・「販売価格の値上げを実行し、採算は確保できるようになったが、仕入価格も上昇しており、今後も厳しい状況が続く見込み」（工業用プラスチック製造業）
- といった窮状を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には、
- ・「中国産製品の敬遠により、国内加工企業への受注が増加」（水産食料品製造業）
- といった声も聞かれる。

#### **【卸売業】**

- ・「包装資材等の価格上昇により、必要経費が利益を上回り、経営を圧迫」（農畜産水産物卸売業）
- ・「鉄関係の製品価格は数年前の2倍以上に高騰、原油価格も上昇傾向と、先行きが不透明な状況」（建築材料卸売業）
- ・「売上の減少や採算の悪化に伴う長期間の不況により、倒産が大幅に増加」（家具・建具等卸売業）

#### **【小売業】**

- ・「各商品の値上げに伴い、消費者の購買意欲が低下し、売上は停滞気味」（百貨店）
- ・「採算が悪化し、従業員を雇えない状況」（その他の小売業）
- ・「大規模なショッピングセンターの進出が決まり、今後の悪影響を懸念」（その他の小売業）

#### **【サービス業】**

- ・「売上は増加も、食材価格の高騰の影響で、採算が悪化」（食堂・レストラン）
- ・「原油価格が最高値を更新するなど、経営が厳しい状況」（運送業）
- ・「宿泊客数の減少に加え、各種仕入価格の高騰により採算が悪化」（旅館）

全産業合計の売上DIは、マイナス幅が8.5ポイント拡大して38.6となり、3カ月ぶりに悪化した。産業別にみても、DI値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

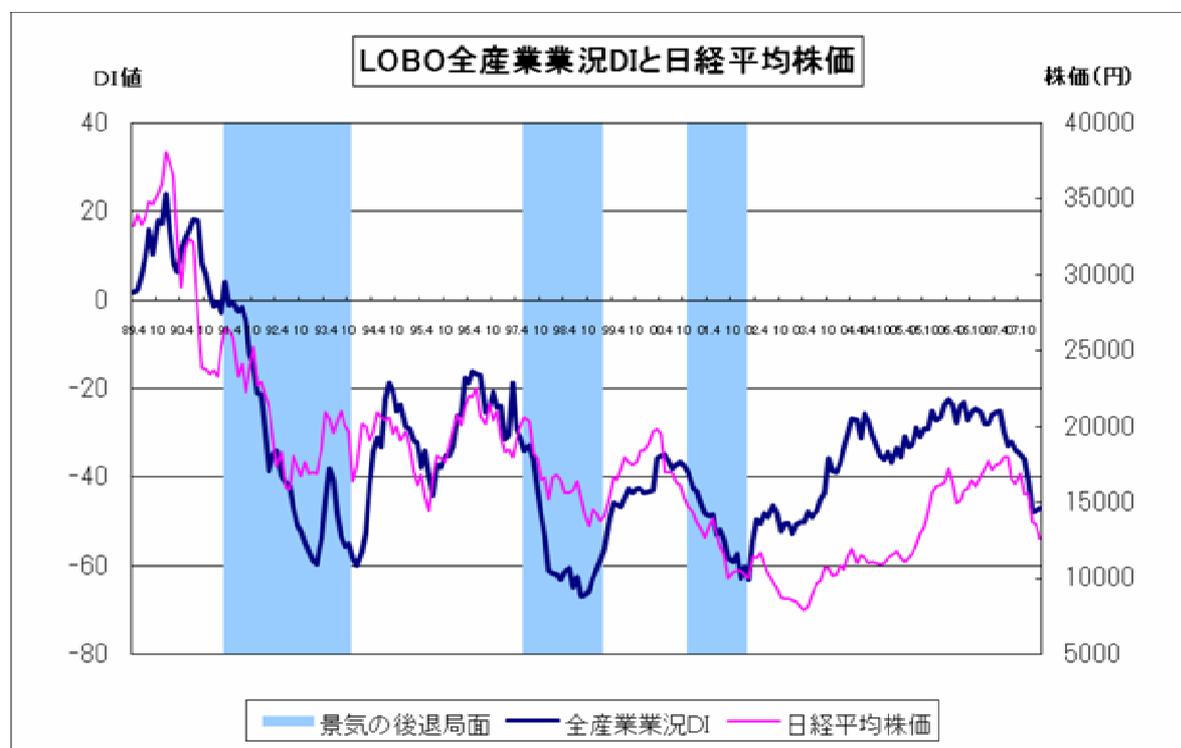
全産業合計の採算DIは、マイナス幅が4.3ポイント拡大して47.1となり、3カ月ぶりに悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造、小売、サービスで拡大、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

全産業合計の資金繰りDIは、マイナス幅が1.9ポイント拡大して30.3となり、2カ月ぶりに悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造で横ばい、卸売、小売、サービスは拡大し、建設も引き続き低水準で推移している。

全産業合計の仕入単価DIは、14カ月連続で悪化して55.9となり、調査開始以来最悪の水準を更新している。産業別にみると、仕入単価の上昇感は、卸売は低水準で推移し、他の4業種では強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは3.8と、過剰感は前月から横ばい。産業別にみると、DI値は小売で不足感が弱まる一方、サービスで不足感に転じた。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月ベース)が47.1と、昨年同時期の先行き見通し(20.9)に比べて大幅に悪化している。産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、約15ポイント以上の悪化となっている。



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 46.9 ）よりマイナス幅が3.5ポイント拡大し 50.4 となり、03年4月以来、5年ぶりにマイナス50台となった。

産業別にみても、D I 値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 47.1 と、昨年同時期の先行き見通し（ 20.9 ）に比べて約26ポイントも悪化している。

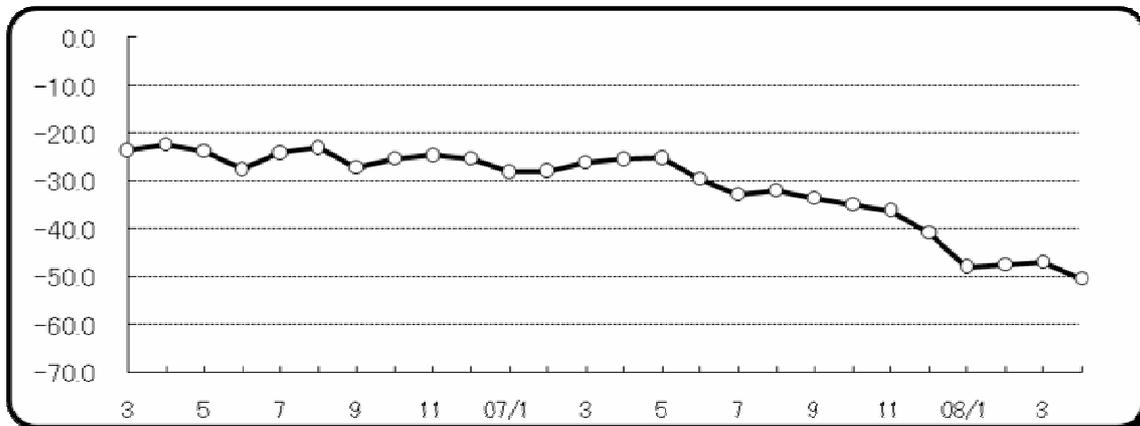
産業別にみても、全ての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、約15ポイント以上の悪化となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	07年 11月	12月	08年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	36.1	40.8	47.9	47.5	46.9	50.4	47.1 ( 20.9)
建設	46.8	57.3	58.1	57.7	59.4	64.6	60.5 ( 37.5)
製造	29.2	34.9	40.4	40.3	41.3	43.1	46.8 ( 19.3)
卸売	45.6	44.9	55.6	57.7	47.3	53.6	41.1 ( 26.3)
小売	36.0	39.0	49.2	49.1	48.4	52.8	47.2 ( 14.2)
サービス	32.6	37.1	44.5	42.7	43.3	44.4	40.9 ( 17.4)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年4月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が8.5ポイント拡大して38.6となり、3カ月ぶりに悪化した。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

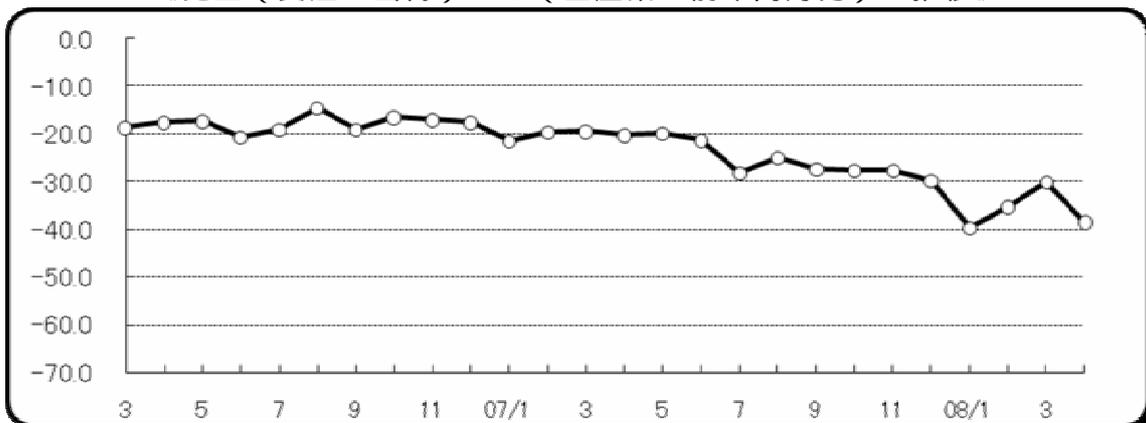
向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が35.7と、昨年同時期の先行き見通し(16.6)に比べて約19ポイントも悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売でほぼ横ばいだったものの、他の4業種で15ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	07年		08年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	27.7	29.9	39.8	35.4	30.1	38.6	35.7 (16.6)
建設	45.2	51.6	55.7	51.9	53.0	54.3	52.0 (36.7)
製造	18.0	19.1	24.0	20.3	19.5	25.5	32.1 (15.0)
卸売	33.8	39.1	52.0	47.0	29.3	42.1	23.7 (24.4)
小売	26.4	29.8	43.9	35.2	26.8	42.0	38.8 (10.3)
サービス	25.8	23.7	36.6	36.9	31.5	36.4	29.9 (9.1)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が4.3ポイント拡大して47.1となり、3カ月ぶりに悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造、小売、サービスで拡大、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

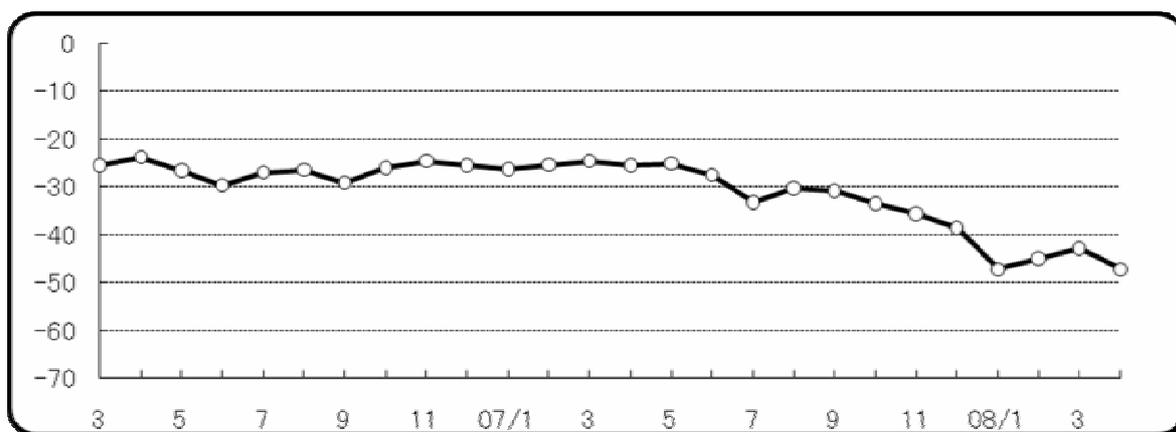
向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が44.0と、昨年同時期の先行き見通し(20.4)に比べて23ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で13ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	07年		08年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	35.6	38.5	47.1	44.9	42.8	47.1	44.0 (20.4)
建設	50.0	56.7	63.0	57.7	62.8	61.4	58.9 (39.5)
製造	33.7	37.0	43.8	40.3	42.1	46.1	47.6 (21.2)
卸売	36.3	40.4	43.3	53.3	44.0	41.7	32.2 (18.6)
小売	31.4	34.3	44.4	40.9	34.2	42.7	40.4 (13.6)
サービス	33.1	32.6	45.3	43.2	41.1	45.9	39.3 (15.6)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	07年 11月	12月	08年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	22.2	24.9	28.5	31.0	28.4	30.3	30.7 ( 16.8)
建設	34.5	38.3	45.1	48.7	46.3	43.5	46.2 ( 29.2)
製造	19.4	23.3	25.1	25.0	25.3	25.3	28.3 ( 13.9)
卸売	23.2	24.3	24.8	27.3	20.9	28.8	25.9 ( 16.7)
小売	17.1	20.7	27.6	30.2	25.5	30.0	27.4 ( 13.0)
サービス	22.0	23.0	23.5	28.9	26.9	27.7	28.6 ( 16.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は2カ月ぶりに悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造で横ばい、卸売、小売、サービスは拡大し、建設も引き続き低水準で推移している。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	07年 11月	12月	08年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	39.8	44.4	48.4	49.8	51.6	55.9	50.6 ( 20.0)
建設	47.4	53.1	59.0	56.3	59.2	67.2	57.1 ( 29.3)
製造	54.4	57.5	60.7	59.0	60.5	63.5	56.2 ( 31.3)
卸売	30.0	34.0	31.1	42.0	47.3	44.1	38.2 ( 18.7)
小売	29.9	34.1	38.7	41.7	42.7	49.0	46.8 ( 9.4)
サービス	35.2	41.4	46.9	48.6	49.7	53.4	49.7 ( 15.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は、14カ月連続で仕入単価の上昇を示し、調査開始以来最悪の水準を更新している。産業別にみると、仕入単価の上昇感、卸売は低水準で推移し、他の4業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	07年 11月	12月	08年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	0.8	2.2	4.0	4.1	3.8	3.8	4.3 ( 2.0)
建設	15.5	18.0	15.9	20.3	22.2	20.9	19.4 ( 16.9)
製造	0.0	1.0	2.2	2.2	2.0	3.8	3.5 ( 3.8)
卸売	1.9	5.1	6.6	6.0	7.4	6.6	9.3 ( 4.5)
小売	4.5	1.5	0.0	1.7	3.9	2.0	0.9 (6.3)
サービス	1.8	1.1	2.2	2.1	2.5	1.6	0.8 (1.2)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは 3.8と、過剰感は前月から横ばい。産業別にみると、D I値は卸売でほぼ横ばい、サービスでは募集に対し人員が集まらないなどの理由で不足感に転じたものの、小売で不足感が弱まり、製造で過剰感が強まった。また、建設の過剰感の縮小は、受注の減少に伴う従業員の雇用削減による声もある。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、製造で過剰感がほぼ横ばいだったものの、小売、サービスで不足感が弱まり、建設、卸売で過剰感が強まる見通し。

【2008年4月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設からは、「受注価格の下落と競争激化により、今後への不安感が増大」(東京・建築工事業)とのコメント、製造からは、「材料費が4月より再値上げとなるが、一方で受注先からはコスト低減の要求が強く、厳しい状況」(佐野・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「地元企業の倒産が続く一方、競合店の出店も予定されるなど、今後も厳しい状況となる見込み」(盛岡・百貨店)、「仕入価格の上昇幅がさらに拡大し、今後の採算の悪化を懸念」(深谷・その他の小売業)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設からは、「今月に入り鉄鋼、金属などの資材価格は一段と高騰しており、厳しい競争の中での価格転嫁は難しく、収益を圧迫」(静岡・一般工事業)、「木材、建材、金物等の価格が10～15%上昇するなど厳しい状況」(上田・他の職別工事業)とのコメント、製造からは、「原材料価格の高騰に加え、一部材料は入手が困難な状況」(函館・一般産業用機械製造業)、「原材料である鋼材価格は依然として高値で推移しており、コスト増に見合うほど販売価格に転嫁できない状況」(静岡・自動車・附属品製造業)との声が寄せられている。また、小売からも、「原料価格高騰の影響により、日用品の値上げが顕著、売上への悪影響を懸念」(松戸・百貨店)といったコメントが寄せられている。

暫定税率失効の影響

今月は建設業から、道路特定財源の暫定税率の期限切れに伴う受注への悪影響や、先行きに対する不安を訴える声が多く寄せられている。「各自治体の道路関係予算に一時凍結の動きがあることから、予算執行が大幅に遅れることとなり、当面の資金繰りが困難」(盛岡・一般工事業)、「公共工事減少への追い打ちを懸念」(沼田・一般工事業)、「道路工事の発注が遅れ、業況がさらに悪化する見込み」(札幌・一般工事業)、「新年度の工事発注が極端に少なく、先行き見通しも全くできない状況で、廃業や従業員のリストラが発生」(倉吉・一般工事業)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年 2月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	中国製冷凍食品の影響
3月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	急激な円高に対する不安
4月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	暫定税率失効の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「例年期初は新規発注もなく、総じて収益状況、資金繰りとも悪化」、「民間工事は改正建築基準法の影響は和らいできているものの、従前に比べ工事着工は遅れ、受注件数も減少」(ともに一般工事業)、「受注量は激減し、原材料価格の値上げも予定されるなど、今後も厳しい状況が続く見込み」(建築工事業)といった声が寄せられている。一方、「造船関連の受注は確保できている」(一般工事業)という声も寄せられている。
製 造	業況D I、採算D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「中国向け以外の輸出は低調に推移」(織物製造業)、「例年であれば忙しい時期だが、今年は受注が減少するなど、全く逆の状況」(ニット・シャツ製造業)、「受注は前年同月より増加しているが、燃料・原材料費の高騰により生産コストが増加し、収益は減少」(他の窯業・土石製造業)、「円高の影響で海外からの工作機械の受注等に陰りが見え始め、先行きに不安」(金属加工機械製造業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「原油高による配送費の上昇に加え、中国製品への不安感から国産を含む他国製品への移行が進み、仕入価格の上昇に繋がっている」、「漁業者の重油の高騰、漁獲量の減少、漁価の上昇で、厳しい状況」(ともに農畜産水産物卸売業)、「全ての商品の売上が昨年より減少」(衣服・日用品卸売業)といった声が寄せられている。一方、「今月中旬から観光客が増加傾向であり、ゴールデンウィークに向けて明るい材料」(各種商品卸売業)という声も寄せられている。
小 売	業況D I、売上D I、採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「大型商業施設が増加しており、顧客の分散化が進んでいる」、「春物衣料品の動きが今ひとつで、売上は前年実績を下回っている」(ともに百貨店)、「食料品価格の上昇に伴う消費者の買い控えの影響で、売上が10%減少」(その他の小売業)、「歓送迎会の予約が昨年に比べて大幅に減少し、売上が悪化」、「来客数は前年同様だが、高級品の販売が不調」(ともに商店街)といった声が寄せられている。一方、「新入生・新入社員向けの衣料や、国産生鮮食品の売上は好調」という声も見られる。
サービス	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「ガソリン価格高騰の影響で、車で外出する人が少なくなり、駅から遠い飲食店は売上が大幅に減少」(そば・うどん店)、「売上は昨年に比べて減少する一方、燃料や食材の価格は上昇し、収益を圧迫」、「特に企業関係の需要の減少が顕著」(ともに旅館)、「同業者間の競争激化と需要の減少により、収益の確保は難しい状況」(産業用機械賃貸業)といった声が寄せられている。一方、「5月以降、観光シーズンに入り、宿泊売上は増加の見込み」(旅館)という声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、近畿では低水準で推移する一方、他の8ブロックは拡大した。また、全ブロック合計は3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

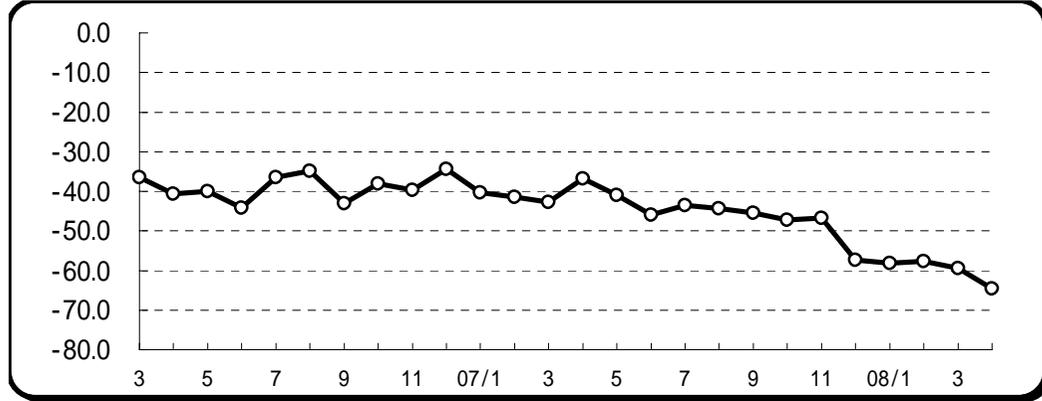
ブロック別の向こう3カ月(5月～7月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。また、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

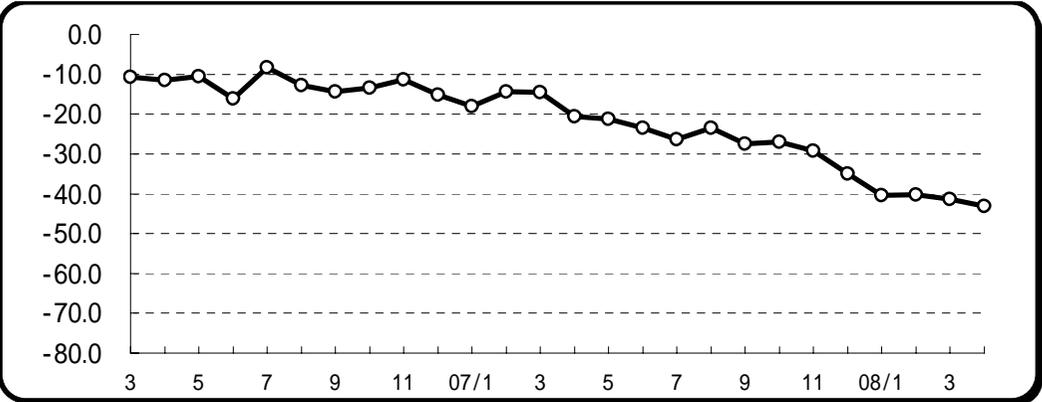
	07年 11月	12月	08年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全 国	36.1	40.8	47.9	47.5	46.9	50.4	47.1 ( 20.9)
北 海 道	46.5	41.7	50.4	49.5	52.5	55.0	50.5 ( 26.4)
東 北	36.8	44.7	49.3	48.6	53.0	54.3	51.4 ( 23.4)
北陸信越	35.5	40.6	48.8	50.0	41.9	47.6	46.4 ( 25.4)
関 東	29.9	39.1	44.8	43.2	44.1	46.5	45.9 ( 12.2)
東 海	32.5	37.0	40.8	48.7	42.6	45.8	40.6 ( 23.0)
近 畿	32.5	43.4	54.2	53.4	54.1	49.6	48.2 ( 21.5)
中 国	41.2	42.6	54.5	53.0	50.4	62.0	55.0 ( 28.7)
四 国	46.6	37.3	44.4	40.6	44.4	50.4	45.5 ( 29.8)
九 州	40.1	42.7	46.2	45.6	43.3	53.1	44.6 ( 17.0)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

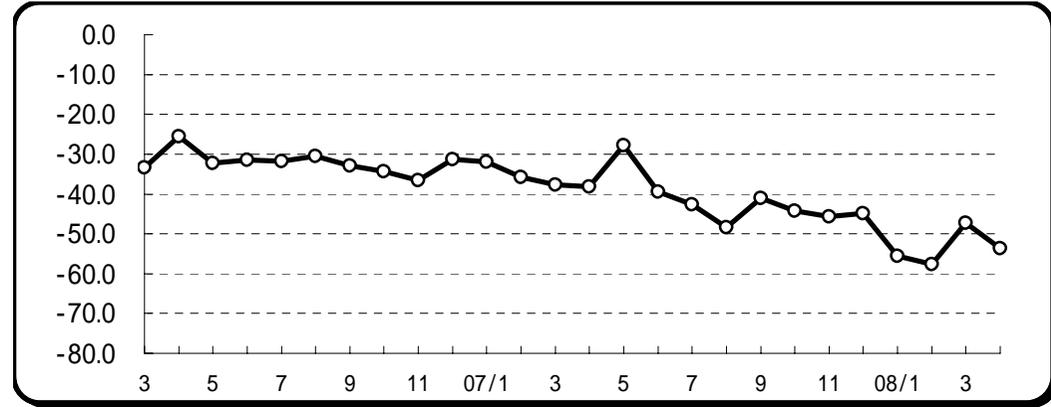
## 建設業



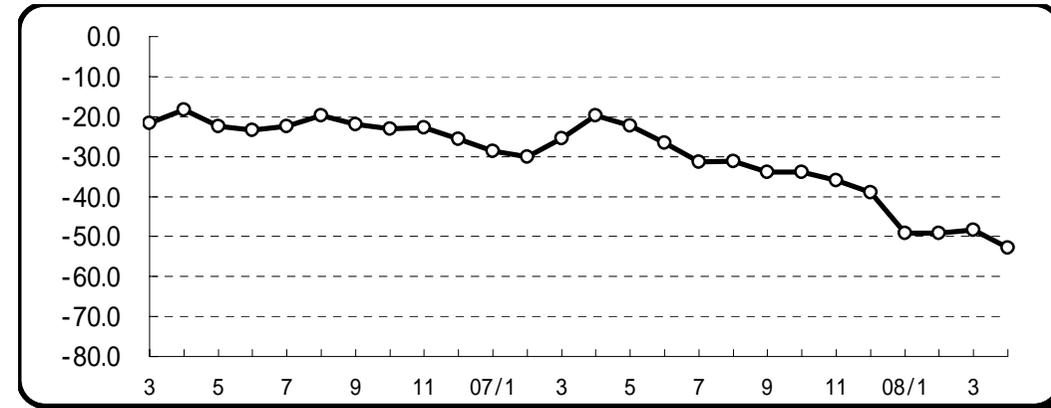
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

